

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970200091	
法人名	社会福祉法人 ひかりの里	
事業所名	グループホーム めだかの学校	
所在地	山梨県 山梨市 三ヶ所937-1	
自己評価作成日	令和2年12月31日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	2月19・20日 木・金曜日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

桃やぶどうの果樹地帯にあるH15年に開所した木造2階建てのユニットIとH23年に開所の平屋のユニットIIのホームである。朝食後Iの建物に移動し朝礼を行い1日の予定を相談する。家庭的な雰囲気の中で残存能力を高める為に生活リハビリを中心に支援している。家族から協力を頂き一人ひとりの生活歴を知る事でその人らしい暮らしが出来てそれぞれが役割を担い楽しく過ごしている。食事の支度は季節の野菜を庭の畑で収穫し皆で相談しながら食べたい料理を決めて作っている。天気の良い日はお弁当を作り外気を浴びながらのテラスでの食事はIとIIの仲間の交流の場となっている。掃除は毎日の日課でモップや雑巾掛けなどを行っている。地域のふる里祭りに参加し文化祭等に皆で作った作品を出展する事や近くの保育園との交流会などで地域に浸透している。

木造2階建てを改装した家庭的なユニットIと平成23年に開設されたバリアフリーの平屋のユニットIIからなる2ユニットである。ホームの窓や縁側から桃やブドウ畑が眺められ、2ユニットの行き来の度に草花に触れ四季の変化を感じられる環境である。朝礼は2ユニットの入居者・職員合同で行っており、健康チェックや朝礼後、職員と一緒にそれぞれに掃除道具を手に居室の掃き掃除や拭き掃除を行う等生活リハビリの機会と成っている。昼食までは食事の手伝い・洗濯物を干す人・本を読む・テレビを見る等思い思いに自由に過ごしている。コロナ禍で地域との交流は少なく成っているが、「家庭的な雰囲気の中で生活出来る事」と言う独自の理念を念頭に置き、地域と支え合うをモットーに日々の支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 現状は(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度(コロナ禍以前) 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 現状は(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が(コロナ禍以前) 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームめだかの学校

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(Ⅰ)	ユニット名(Ⅱ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的雰囲気の中で生活出来る事」を独自の理念として地域と支え合う知識と技術を学び、利用者と接するように取り組んでいる。	Iと同じ	独自の理念「家庭的な雰囲気の中で生活出来る事」を居間正面に提示し、毎月の職員会議の中で周知徹底している。朝礼では、職員と一緒に職場の倫理5個を読み上げ、声を出すと共に同時に健康チェックも行なっている。入居者がこの場所で、楽しく和気あいあいと過ごしているかを毎日振り返り、地域と入居者とのよりよい関係作りにも努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の活動に賛助金を支払い、区員として関わりが持てる交流をしている。 近所の保育園とも交流があり、地域の文化祭などに利用者様が作った作品を展示したりしていた。	Iと同じ	地域の自治会に加入。コロナ禍で、近所の保育園との交流・文化祭に作品を展示する機会が無くなってしまったが、手巻きアートなどの作品は居間や玄関に飾り、雑巾アートは家族や来訪者に差し上げ大変喜ばれている。近所の施設がお休みの日は広い駐車場内を散歩し、近隣の方と挨拶を交わしたりしている光景が見られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市より「ホットスペース事業」を委託されている事で「街の駅・やまなし」で認知症の人の対応で困っている相談を受けている。認知症の対応方法(雑巾縫いや作品作り)を伝えている。	Iの利用者さんと共に参加。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染拡大の為9月が一回目を行った。家族との対面や外出も困難で体調管理に努めた。	Iと同じ会場はⅡの建物で行っている。	運営推進会議はコロナ禍により昨年9月から再開し、2か月に一度、時間を短縮して行い入居者の健康管理を徹底的に行なっていると報告。介護保険課の来訪もたまにある。事業所の現状や利用者の様子、外出や家族との面会も少ない事等も話した。面会希望者は庭のテラスや勝手口を出た所に椅子を置き外気浴をしてもらいながら間隔を開け、短時間ではあるが面会ができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の職員が参加する事で利用者さんの生の声や家族の代表からもサービスの取り組みを発言してもらった。現在のホームの状況(職員不足で運営がスムーズにゆかない事など)を伝えている。	Iと同じ	コロナ禍で提出出来ていなかった書類と一緒に「めだか便り」を届けた。入居者の様子や事業所の取り組みがよくわかり、とてもいいことだと言ってもらえた。人員不足で運営が行き届かないこと、ヒヤリハットなどの相談も行ない、対処方法・アドバイスをいただく等の協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外出も困難となり状況を伝えるのみであった。身体的、精神的な問題は、家族や主治医と相談している。	Iと同じ	月1回の職員会議の内部研修でスピーチロック・センサーは使用しない、日中は玄関の施錠はしない等について共通認識が出来ている。入居者が苦痛に成らないように配慮し、職員同志注意し合える環境もできている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修に参加し学ぶ機会を得ている。	Iと同じ		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修に参加し、学ぶ機会を得ている。金銭の管理能力が低下し、その対応が必要と思われる人が活用出来るように関係者と話し合いを重ね支援し成年後見人制度を利用していた事がある。これからも成年後見人制度を活用してゆきたい。	Iと同じ		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくりと丁寧に説明し、家族からの不安や疑問点を聞き納得を得て、書類を確認後、サインをもらっている。改正の際も書類を確認して頂いている。また、解約や状態の変化から退所となった場合も丁寧に説明し理解を得ている。	Iと同じ		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームめだかの学校**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(Ⅰ)	ユニット名(Ⅱ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、ホーム便り(「めだか便り」)を発行し、近況を報告している。受診時訪問時に意見等をうかがっている。	Iと同じ		受診時や計画にサインをもらう時、月1回の料金支払い時に出来るだけ意見を聞く機会を設けるように努めている。また、「めだか便り」を送付し近況を報告し安心してもらっている。今までの様に面会が出来なくなると寂しいとの意見もあり、希望者には玄関を出た所のテラスや勝手口に椅子を置き、離れて面会出来る場を設けた。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との意見交換は、職員会議の時に意見や提案を聞いている。月一回の代表者の訪問時にも話し合う機会を設けている。	Iと同じ		毎月1回の職員会議で管理者が職員の意見や要望を聞き、必要ことは法人に挙げている。また、法人の代表者が訪問した時に入居者に毎回大正琴を弾いてくれたり、職員が気軽に相談出来る。職員不足については他事業所から応援に来てもらう等、速やかな対応がなされている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	機会を設け代表者は職員の努力や実績を把握して職員の評価を行い、環境や条件を聞き向上心を持って働けるよう努力してもらっている。職員不足の対応として勤務時間の短縮や勤務条件を工夫する事を理解してもらい整備している。	Iと同じ		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できず内部研修のみとしている。	Iと同じ		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームが「ホテスパース事業」を委託されていて それぞれの意見交換出来る機会を得ている。当ホームを見学したり交流する機会を得ていて相互で質の向上に取り組めるようにしていたがコロナウイルス感染の為出来ていない。	Iと同じ		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コロナウイルス感染拡大の為サービス導入に当たっていない。	Iと同じ		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の状況を把握する為、家族の来所の際、困まっている事や不安や要望に耳を傾けながら安心して生活出来るよう関係づくりに努力している。本人の情報(生活史、習慣、好きな物)や家族の情報も聞き取り信頼作りに努めている。		12	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から本人の解る事、出来る事を知り、必要とする支援を探っている。	Iと同じ		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅での生活の延長 ありたいと日々支援している。それぞれ役割を持ち得意としている事を引き出す工夫もしている。朝礼や調理、縫い物、作品作り等を毎日の生活習慣としている。	Iと同じ		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームめだかの学校

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(Ⅰ)	ユニット名(Ⅱ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	字が書ける人は、家族からの手紙の返事を書いてもらっている。写真・塗り絵に家族へのメッセージも書いてもらい、送るようにしている。	Iと同じ		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思いに寄り添い電話や手紙を利用したり居室には家族の写真や行事の写真などを貼っている。家族との面会(今はコロナウイルス感染拡大などで密接しての面会)の帰りの際には、生活リハビリで作った雑巾を土産・お礼に渡している。	Iと同じ	娘に会いたい等の入居者の要望に沿い、週1回電話をする・手紙や絵手紙を出す・庭のテラスや勝手口を出た所・窓越しに面会する、家族に思い出の写真を持って来てもらい折に触れ話題を提供する等、関係継続に繋げている。作品制作や生活リハビリとして縫った雑巾を家族に手渡し大変喜んでもらえている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自己紹介をしたり、年令に沿った話題で共有し、趣味や行動を支え合える支援をしている。一人一人が孤立せず得意としているものが発揮出来るよう支援している。時折、Ⅱの建物に行き、仲間同士の交流を深めている。	Iと同じ		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても関係は変わらず、家族とも必要に応じて相談を受けたり遊びに来てもらっていた。	Iと同じ		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情を観察し、変化や気付き得るよう心掛けている。	車椅子対応や帰宅願望の強い人のユニットとしている。	毎朝の朝礼で、発言する・手を上げる・挨拶の号令をかける等入居者が自己表現する機会を意識的に設けている。日常の会話からの要望や希望を聞き洩らさず、表現の乏しい方は日頃の関わりから意向や体調の変化を見逃さないよう心掛け支援に結び付けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族などの訪問時に本人の生活歴や入所前の生活環境等を聞き取り、アセスメントシートに記入している。これまでの経過を聞き取り、把握し、支援へとつなげている。	Iと同じ		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の過ごし方を知り、その人らしく生活してもらう為に「出来る事・出来ない事」「解る事・解らない事」の生活リズムを把握する為の努力をしている。ケース記録に一日の詳しい様子を記入し、家族に確認して頂いている。	Iと同じ		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その時の職員や必要な関係者とも話し合い計画を立てモニタリングを行い、ケア会議に図り反映している。計画の期間は1年とし、評価の期間は6ヶ月としている。	Iと同じ	入居前、ケアマネジャーが本人・家族から意向や要望を聞き取り暫定プランを作成、家族の了解の元、職員間で共有し、1か月を目度にモニタリングし、本プランを作成している。日々の支援はケース記録に記入している。記録を基にケア会議を開催し話し合っている。変化のある入居者は随時見直しを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子が解るように その時の場面や本人の言葉などを日中は黒色で 夜間は青色でケース記録に記入している。職員の情報は、申送りの用紙やノートに記入し共有してケア会議で意見をまとめ、計画、評価に役立っている。	Iと同じ		

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームめだかの学校	[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価
			ユニット名(Ⅰ)	ユニット名(Ⅱ)	実践状況
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット名(Ⅰ) その時々生まれるニーズに対応して行きたい。	ユニット名(Ⅱ) Iと同じ	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染拡大の為地域の店に買い物には行けない。2か月に一度の訪問美容師には来て頂いている。	Iと同じ	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則として家族が同伴。 無理な時は、職員が対応している。体調について様子の有無は家族と共有している往診の対応もあり、緊急時も適切な対応と関係医療が受けられるような体制を支援している。	Iと同じ	入居前からかかりつけ医を受診している入居者は9名、受診は基本家族対応である。受診時、個人記録と口頭で状況を知らせ、結果はケース記録に記入し、職員間で共有している。受診困難な場合や緊急時は看護師が医師と連絡を取り合い、往診等の対応や適切な医療が受けられる体制が出来ている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は申し送りノートや独自のバイタル表などに食事・水分摂取量、排泄の有無を記入し、看護職へ身体的状態を伝え健康管理や医療に関する相談をに対応している。日々の関わりからスムーズに受診の介助の支援もしている。	Iと同じ	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は家族の了解を得て 医療機関に介護と看護のサマリーの情報を提供している。 認知症状が進行しない為の工夫として職員が病院に行き面会する支援をしていた。	Iと同じ	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行けることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期についての話をしている。重度化しても対応出来る事と看護ケアのマニュアルがある事を説明している。本人の気持ちを大切に安心して終末期を迎えられるように話し合いを行い地域の関係者や かかりつけ医とも相談をし職員と利用者が一緒に支援に取り組んでいる。	Iと同じ	平成30年度以降は看取りはないが、入居時に終末期の対応が出来ることや看護ケアマニュアルを作成していることを説明している。重度の判断は主治医が判断し家族・看護師・職員と今後の対応を話し合って決定している。終末期は家族の泊まれる部屋や食事の提供も行う体制にあり、入居者が安心して最後を迎えられるように職員・入居者で努め、お見送りも行なっている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを設置してあり、緊急時の通報訓練を行い看護師から応急処置や初期対応の指導を受けている。意識喪失とバイタルの異常から緊急性を確保して かかりつけ医に連絡したり救急車を要請している。	Iと同じ	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間、地震で火災が起きた事を想定し自衛消防訓練を消防器具点検時に消防署員の指導で利用者と共にしている。何度か同じ訓練を行う事で玄関に集まる習慣を身に付けている。玄関には防災グッズを入れ地域の協力も得ている。	Iと同じ	消防署員の協力の元、地震・火災を想定し夜間訓練を行い、指導を仰いでいる。自衛消防訓練として通報訓練や電話連絡網の確認を行なっている。レクリエーションを兼ねた避難誘導訓練を何度も行ない防災グッズが設置してある玄関に集まる事が出来ている。近隣住民の協力が得られる体制も整っている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段から さりげない馴染みの言葉かけ(甲州弁)は家族から理解して頂いている。一人ひとりの希望を叶え、居室で過ごす自由や個々のプライドや誇りを大切にしている。	Iと同じ	利用者が傷つかない様に声掛けには配慮している。トイレや入浴時の声掛けはさりげなく行い、本人の後ろに立ち、入居者本人に気づかれない様に誘導している。同性介護やカーテンで仕切る等の工夫も行なっている。個人情報もしっかり管理されている。

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームめだかの学校**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(Ⅰ)	ユニット名(Ⅱ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今、何をしたいのか傍らに寄り添い得意としている所仕事やモップ掛け、洗濯物干し・たみをしたり家族に会いたい希望を電話を利用している。	Ⅰと同じ		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リハビリを中心に支援している。新聞購読時今日は何をして過ごしたいか希望は聞かすがコロナ禍の為困難である。新聞記事の感想日記も書く習慣を続けている方もいる。	Ⅰと同じ		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさの支援をしている。馴染みの理容師さんに希望を伝えている。	Ⅰと同じ		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活リハビリとして職員と一緒に食事の準備や片付けをしている。食材を用意して献立を決め季節の行事を盛り込んだ食事作りをして食事を楽しんでいる。庭のテラスでの食事を楽しんでいる。	Ⅰと同じ	献立は、入居者に聞きながらできるだけ希望に沿えるように決めている。食材は近くの馴染みのスーパーから届けてもらっている。入居者はそれぞれの状況に応じて台所担当者と一緒に野菜を切る・盛り付けをする・ピューラーを使う等持てる力を発揮し笑顔が絶えない。行事の折には松華弁当容器を使用して楽しんだり、おやつはポップコーン・ホットケーキ等を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量はケース記録に記入し一人ひとりの状態を把握している。栄養バランスを考えた献立は、食物繊維を多く取り入れて食べ慣れた和食中心の献立で低栄養にならないように心掛けている。	Ⅰと同じ		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄は洗浄剤を夜間時に使用している。義歯を入れている利用者さんは側に寄り添い自身での義歯の出し入れを促したり、介助している。	Ⅰと同じ		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンや習慣を活かす為に時間にトイレ誘導をして申し送り表などに各自の排泄時間を記入している。排泄の誘導はさりげなくするよう心掛けている。	Ⅰと同じ	排泄チェック表に記入し、一人ひとりのパターンを把握し、周囲に気づかれないよう、さりげなく誘導している。転倒の危険性が高い方でもリハビリを兼ねた誘導を行なっている。身体状況によりオムツ対応の方、防水シューズ・アンダーシューズ対応の方もいるが自立に向けた支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を取り入れたり水分摂取を促したり体操など体を動かす事を促している。便秘の問題を抱えている人はかかりつけ医の指示を得ている。	Ⅰと同じ		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別に合った入浴を理想とし、主に日中の午前中に入浴時間とし週2~3回の入浴としている。常に清潔保持に努めている。仲間同士で入浴を楽しんでいる。	Ⅰと同じ	脱衣室にはタンスが置かれ一人ひとり綺麗に整頓され、入浴時自由に着替えが出来るように工夫されている。仲の良い入居者同士が脱衣所で話をしたり、バイタル測定をしたりして入浴を楽しんでいる。嫌がる方は「体重測定をしましょう」と言って誘っている。季節には菖蒲湯・柚子湯等楽しんでもらう工夫を心掛けている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームめだかの学校**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(Ⅰ)	ユニット名(Ⅱ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、なるべく生活リハビリや体を動かす事をして頂き安眠につなげているが高齢者が多いので昼食後は休憩時間を取っている。	Iと同じ		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医や看護職員から服薬についての指導を受けている。個別に手渡しや服薬介助をしている。症状の変化についてはいつも詳細な記入をケース記録に記している。	Iと同じ		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除(拭き掃除など)・洗濯物干し、たみは張り合いで行っている。庭の畑での野菜作りは喜びのひとつと言える。干し柿作り、巻き紙の作品作り、雑巾作りは楽しみながら作業されている。朝礼の役割は良く行っている。	Iと同じ		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染拡大の為に、今は家族の付き添いで受診以外は外出が出来ていない。	Iと同じ	法人合同のレクリエーション、家族との外食、馴染みの店に買い物に行く等今までの様に外出出来ていないが、日頃は玄関先のテラスでベンチに座り会話を楽しんだり、勝手口を出た所に椅子を置き外気浴を楽しんだりしている。時々近所の方と挨拶を交わすこともある。コロナ禍でも入居者一人ひとりの希望に沿った外出が出来るように模索中である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	移動バン屋さん cameりたり地域の移動スーパーの店員が来て買い物をしていたがコロナ禍の為出来ていない。	Iと同じ		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙や はがきは本人に手渡している。その返事も書いてもらっている。「めだか便り」や塗り絵にも家族へのメッセージを書いてもらっている。定期的に家族に電話して頂き安心して頂いている方もいる。	Iと同じ		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改造した室内は自宅での生活そのままを連想させ、居間は畳部屋となっている。居室には温度計を入れ寒暖差に注意して光を多く取り入れている。トイレにはプライバシーを尊重し仕切りにカーテンを使用。季節が感じられるよう花や作品や写真などを貼っている。	バリアフリー対応の為、玄関、廊下、ホール、居室等に不快や混乱がないように工夫している。居室に温度計を入れ寒暖差に注意している。ホールは外の景色が見られるよう配置され光を取り入れている。写真などやIとIIを行き来する事で季節の移りを感じている。	木造建築のユニットIは日当たりの良い廊下兼縁側がある。そこからの眺めが素晴らしい。畳の居間には椅子・テーブルが置かれ、ゆっくり寛げ、自宅の延長のような場と成っている。ユニットI・II共に玄関・廊下・壁面に入居者の創作作品・行事の写真等が貼ってあり、入居者との会話に繋げている。ユニットを行き来することで外気浴・自然に触れる機会が日常的に有る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるようしている。廊下には日向ぼっこ出来るよう椅子が置いてある。テラスにはテーブルと椅子が置いてあり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごしている。台所で過ごす人もいる。	Iと同じ		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、馴染みの家具や使い慣れたものを置いている。自宅で使い慣れた布団なども使用している。又、居室には本人が好む写真などが貼ってある。	Iと同じ	居室にはエアコン・温度計・加湿器・ベッドが備え付けてある。それぞれの居室には、馴染みの家具・家族写真・お花・創作品が飾られ、使い慣れた布団を持ち込む等、入居者一人ひとりが心地良く過ごせる好みの居室と成っている。ユニットIIにはフローリングで仕切りを開けると夫婦で入居出来る造りに成っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事や解る事を活かし掃除、洗濯物干し・たみなどが安全に出来るように工夫している。特に台所仕事は包丁やピーラーを用意して安全に配慮している。	Iと同じ		